

遠藤 守 レポート

都議会公明党 新宿区西新宿2-8-1 TEL: 5320-7250 FAX: 5388-1787

ホームページ: <http://endomamoru.com> <お気軽にご意見・ご要望をお寄せください>**馬込車両工場跡地****環境・防災型の「重点プロジェクト」に指定**

大田区内の都有地活用で注目を集めていた「交通局馬込車両工場跡地」（大田区西馬込1-5。約19960平方メートル）の活用方針が、4月18日公表されました。

都が平成15年度から重点事業として、都有地を活用しながら民間プロジェクトを推進する「先行まちづくりプロジェクト」の実施指定を受けたもので、馬込が5番目の指定です。

都の説明によれば、開発コンセプトは「環境と調和した魅力あるまちづくり」。まちづくりにあたっての具体的な誘導目標は、①新たな緑の空間の創出など、環境の確保に配慮したまちづくり②子どもから高齢者まで多様な世代が集うコミュニティ豊かな拠点の形成③良好な住環境など、地域と調和した景観と防災機能の創出——の3つ。

今後のスケジュールは、今年10月頃に事業予定者を決定し、12月以降に契約を交わして、土地の引渡しが行われる予定です。

馬込車両工場跡地の活用について遠藤守は、去る3月14日の都議会予算特別委員会で、この先行まちづくりの指定を含め早急に結論を出すよう強く要望するとともに、その活用にあたっては、馬込特有の歴史と文化、そして、緑多い住環境との調和を図るよう訴

えていました（詳細は下記）。

今回、図らずもこの質問趣旨に沿った形でまちづくりが進められるようになりました。

事業の円滑な実施に向け、今後とも、地域の皆さまとの連携を図っていきたいと思っています。

【予算特別委での遠藤守の発言（抜粋）】

都有地は貴重な財産であり、有効に活用すべきことは当然。（その上で）周辺地域との調和も極めて重要であります。その意味からも、地元のニーズを十分に掌握し、活用の方向性を速やかに示すことが何よりも必要。

（中略）馬込地区は、大正末期から昭和初期を中心に多くの作家、そして芸術家が住んでいたことから、いつごろからか、この一帯、馬込文士村と呼ばれるようになりました。いわば文化学術の一大拠点でございました。そして、現在も多くの文学ファンが全国からこの地を訪れているそうでございます。

また、同地域は、大田区内でも公園や畑、屋敷林など、比較的緑が多い地域、そして、住宅街でございます。先行プロジェクトの指定を含めて、ぜひともこうした馬込地域が持つ歴史的、または地域的な特性を踏まえた先導的な活用策を早急に提示していただきたい。